

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

「筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群」（ME/CFS）の実態調査および客観的診断法の確立に関する研究
分担研究報告書

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群の検体保存状況と診療状況

研究分担者： 矢部一郎 北海道大学神経内科

研究協力者： 矢口裕章 北海道大学神経内科

研究要旨

筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群(ME/CFS)等の神経疾患検体を臨床情報と共に保存し、自律神経障害や末梢神経障害を呈する神経疾患のバイオマーカー開発のための共同研究体制を構築することを目指した。多様な神経疾患の臨床検体の収集は順調に進捗し 2000 例以上の検体数となった。ME/CFS の検体保存や確定診断例の経験はなかった。今後も継続して臨床情報を伴う検体収集を行う予定である。

A. 研究目的

筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群(ME/CFS)等の神経疾患検体を臨床情報と共に保存し、自律神経障害や末梢神経障害を呈する神経疾患のバイオマーカー開発のための共同研究体制を構築する。

B. 研究方法

北海道大学神経内科研究室において脳炎や脊髄炎、自己免疫性神経疾患を含む神経疾患の血清、血漿、髄液等の検体保存と臨床情報を管理する。ME/CFS および ME/CFS に病態が類似することが予想される COVID19 感染後遺症および COVID19 ワクチン関連事象について後方視的に調査した。北海道大学倫理委員会承認のもと、臨床情報と検体収集を継続している。

C. 研究結果

2023 年 12 月時点で、血清保存されている患者数 2,921 名、血漿保存されている患者数 2,742 名、髄液保存されている患者数 2,871 名、DNA が保存されている患者数 2,263 名であった。疾患内訳として多かったのは、多発性硬化症 645 名、パーキンソン症候群 306 名、自己免疫性脳炎 50 名であった。なお、ME/CFS の検体保存はなかった。2022 年度 1 年間に COVID19 感染後遺症が疑われた患者 11 名、COVID19 ワクチン関連事象が疑われた患者 7 名が受診していた。その愁訴は異常感覚、歩行障害、倦怠感など多彩であった。最終診断として機能性神経障害と診断された症例が最も多かったが、COVID19 感染後遺症患者のうち ME/CFS 疑いとされた症例も 1 例存在した。

D. 考察

これまで本研究班の主たる対象疾患である ME/CFS 自体の検体は保存されていないが、脳炎例と脊髄炎例の検体は増加傾向にある。脳炎患者や多発性硬化症患者においても慢性疲労を呈することがあり、これらの検体を疾患対照として用いることも検討すべきかもしれない。また、COVID19 感染後遺症疑い患者においても ME/CFS が疑われる患者の存在が確認された。因果関係については、さらなる検討が必要である。

E. 結論

今後も継続して、ME/CFS を含めた神経疾患の臨床情報を伴った検体保存に努める。また、COVID19 感染は減少傾向にあるが、未だ継続しており、関連事象として ME/CFS が潜在している可能性にも留意する必要がある。

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）
該当なし